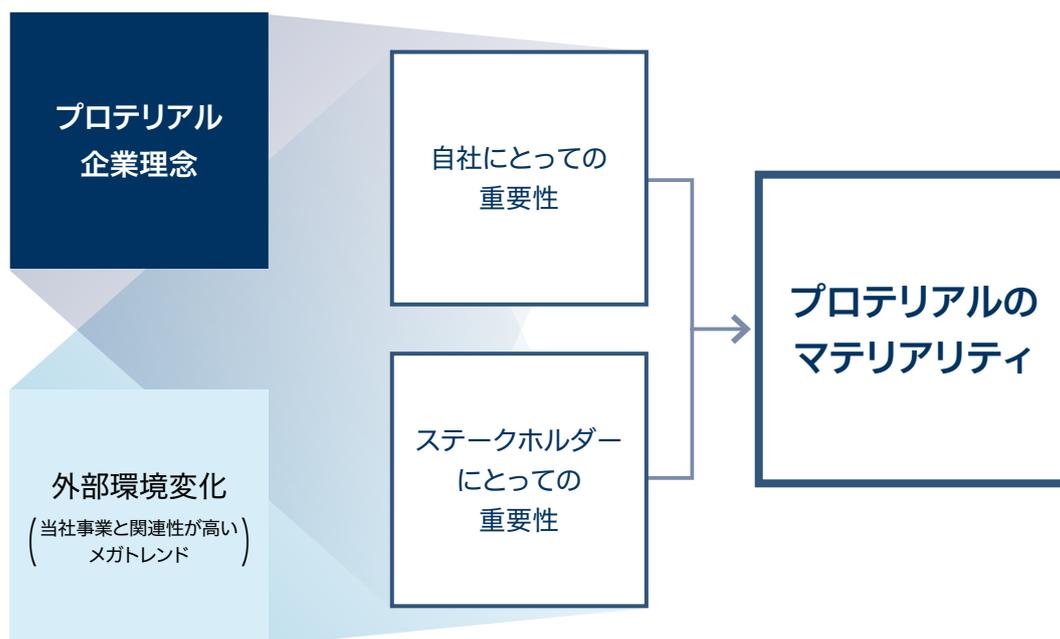


マテリアリティの特定プロセス

プロテリアルは、2022年にESGの取り組みにおける6つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。特定するにあたっては、社会課題の抽出から始め、自社にとっての重要性やステークホルダーにとっての重要性を評価した上で、当社にとっての重要課題を抽出しました。その上で、全執行役および各事業責任者で議論を重ね、経営会議の場で最終審議を行い、マテリアリティを特定しました。

マテリアリティ特定の考え方



マテリアリティ特定のプロセス

1 社会課題の抽出

ESGに関連する複数の国際基準を参考にしながら社会課題を抽出

2 自社にとっての重要性を評価

抽出した社会課題に対し、企業理念や外部環境変化を念頭に、全執行役および各事業責任者がプロテリアル事業における重要性を評価

3 ステークホルダーにとっての重要性を評価

さらに、当社が事業を展開する業界のエキスパートとの議論を通じ、ステークホルダー(お客様、お取引先等)視点で各課題の重要性を評価

4 重要課題の抽出

評価の結果、ステークホルダー・プロテリアル の両者にとって特に重要度の高い社会課題を抽出

5 マテリアリティの特定

全執行役および各事業責任者で議論を重ね、経営会議の場で最終審議を行い、マテリアリティを特定